

バスケット強豪監督は8児の母

指導チーム U15全国大会へ

来年1月の全国U15（15歳以下）バスケットボール選手権女子に出場する神戸市北区のクラブチーム「North Wave（ノースウェーブ）」の監督の宮城佳代子さん（42）＝同区＝は8児の母でもある。19歳から1歳までの子どもを育てながら、「ハイレベルなチームで指導し」「やれることすべてに全力を尽くしたい」と活力にあふれる。

（藤村有希子）

神戸・北区の42歳宮城さん

今年10月、同大会の兵庫県予選決勝。ノースウェーブは前回の全国大会で8強入りした百合学院中（尼崎市）を相手に守りを固めた。第1クォーターで19-4と圧倒すると、次女の美海選手（14）を中心に攻め、67-50で初制覇した。

優勝インタビューで宮城さんは「普段通りにやれば勝てる」と選手に伝えていた。うれしそうですね」と目を細めた。

神戸市垂水区出身で、神陵台中でバスケットを始め、伊川谷高、大阪体育大を経て結婚。夫の地元沖繩県で8年間を過ごした。

指導人生の始まりは沖繩



全国大会の兵庫県予選決勝でチームを指揮する宮城佳代子さん（右）10月、神戸市須磨区のグリーンアリーナ神戸

1～19歳 育児に家事に全力

時代。住んでいた宜野湾市内の小学校でバスケットのコーチがおらず、指導を頼まれた。ベビーカーにわが子を乗せて練習場に向かい「子どもは体育館で育つ」と宮城さんは笑う。

30歳の頃、夫が公務員に転職するのに伴い、家族で神戸に転居。現在、結成5年目のノースウェーブで週5～6日、練習をみる。そんな監督を、山岡千枝選手（15）は「とても明るくて話しやすい。試合で私が弱気になる」と「自分が点を取るつもりでやろう。千枝ならできる」と言ってくれる」と感謝を口にす。



8人のわが子と写真に納まる宮城佳代子さん（後列中央）。後列右端は次女の美海選手。神戸市北区（提供）

宮城さんの一日のスケジュールはこうだ。午前7時に起床。食事を用意し、子どもを保育園に送って、同日9時からパート勤務。夕方夕飯を食わせて、午後6時半から練習に入る。

同日9時の帰宅後も、ほかの子どもの食事準備、幼児の入浴の世話などで慌ただしい。それでも性格や話しぶりなど「8人がみんな違って、子育ては面白い」とわが子を見やる。

名前もそれぞれに個性的だ。四男の弾球君（9）はバスケットや野球で通用するように、「末っ子の虹宙ちゃん（1）は「幸せが広がりますように」という願いが込められている。弾球君はバスケットの審判に関心があるようで、小学3年ながらノースウェーブの練習試合で笛を吹く腕前だ。

全国大会は来年1月4日、東京都調布市の武蔵野の森総合スポーツプラザで幕を開ける。美海選手はシートが入らないときも監督である母から「自信を持って」とどんどん打ちなさい」と背中を押されると、「お母さんを全国大会に連れていけてうれしい。1位をプレゼントして笑顔になってくれたら」と話す。

家族のサポートも受けながら、バスケットに家事、育児にと全力投球の宮城さんは「いろいろと、やることがあつてうれしい。選手たちの成長の過程を見るのが楽しみです」とひとのき舞台を待つ。